



2023年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2023年2月13日

上場会社名 株式会社unerry 上場取引所 東
 コード番号 5034 URL <https://www.unerry.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 内山 英俊
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CF0 経営企画部長 (氏名) 斎藤 泰志 (TEL) 03-6823-8234
 四半期報告書提出予定日 2023年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2023年6月期第2四半期の業績(2022年7月1日~2022年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第2四半期	951	—	△36	—	△41	—	△40	—
2022年6月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2023年6月期第2四半期	△11.89		—					
2022年6月期第2四半期	—		—					

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、2023年6月期第2四半期は1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。
 2. 2022年6月期第2四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、2022年6月期第2四半期の実績及び2023年6月期第2四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第2四半期	1,534	1,029	66.9
2022年6月期	1,203	820	67.9

(参考) 自己資本 2023年6月期第2四半期 1,026百万円 2022年6月期 817百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	—	—	0.00	0.00
2023年6月期	—	0.00	—	—	—
2023年6月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年6月期の業績予想(2022年7月1日~2023年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,953	35.1	212	183.8	205	185.7	125	△12.8	36.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年6月期2Q	3,526,400株	2022年6月期	3,526,400株
2023年6月期2Q	41,148株	2022年6月期	252,000株
2023年6月期2Q	3,442,226株	2022年6月期2Q	—株

(注) 2022年6月期第2四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、2022年6月期第2四半期の期中平均株式数は記載しておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限や海外渡航制限の緩和措置などから、経済活動の持ち直しが見られましたが、供給面での制約や記録的な円安に伴う物価上昇等が続き、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような経営環境のなか、当社は、ミッションである「心地よい未来を、データとつくる。」の実現に向け、リアル行動ビッグデータの収集体制の拡充や解析精度の向上、サービス開発の推進など、リアル行動データプラットフォーム「Beacon Bank®」の基盤及び利活用の強化に注力してまいりました。

具体的には、株式会社フェズとは購買情報と来店情報等を統合した分析サービス「Urumo Explorer」の提供を、シスコシステムズ合同会社とは来店計測や分析可視化を高度化するプロダクト連携を、株式会社エヌ・ティ・ティ・データとは人流センサーを活用したサービスの提供を、それぞれ開始しました。

以上の取り組みの結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高951,003千円、営業損失36,782千円、経常損失41,412千円、四半期純損失40,943千円、リカーリング顧客売上高878,038千円、リカーリング顧客売上高比率92.3%、リカーリング顧客数67社、リカーリング顧客平均売上高13,105千円、NRR144.2%となりました。

なお、当社はBeacon Bank事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて330,241千円増加し、1,534,033千円となりました。これは主に、現金及び預金の増加145,157千円、売掛金及び契約資産の増加136,821千円、棚卸資産の増加43,902千円によるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べて121,545千円増加し、504,493千円となりました。これは主に、買掛金の増加124,945千円、長期借入金の減少10,002千円によるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べて208,696千円増加し、1,029,539千円となりました。これは主に、資本剰余金の増加328,413千円、資本金の減少90,000千円、利益剰余金の減少40,943千円によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ145,157千円増加し、1,045,852千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動に使用した資金は86,997千円となりました。これは主に、仕入債務の増加124,945千円による資金の増加があったものの、売上債権及び契約資産の増加136,821千円、税引前四半期純損失の計上41,412千円、棚卸資産の増加43,902千円による資金の減少があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により得られた資金は26千円となりました。これは、敷金及び保証金の差入による支出273千円による資金の減少があったものの、敷金及び保証金の回収による収入300千円による資金の増加があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により得られた資金は232,128千円となりました。これは主に、自己株式の処分による収入249,749千円による資金の増加があったことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想について変更はありませんが、今後の事業環境の推移や業績の進捗を注視し、見直しが必要と判断した場合には速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	900,694	1,045,852
売掛金及び契約資産	192,723	329,545
棚卸資産	21,964	65,866
その他	13,039	16,707
流動資産合計	1,128,421	1,457,971
固定資産		
無形固定資産	63	47
投資その他の資産	75,307	76,014
固定資産合計	75,370	76,062
資産合計	1,203,791	1,534,033
負債の部		
流動負債		
買掛金	172,206	297,152
1年内返済予定の長期借入金	20,004	114,995
未払法人税等	264	264
その他	85,480	92,082
流動負債合計	277,955	504,493
固定負債		
長期借入金	104,993	—
固定負債合計	104,993	—
負債合計	382,948	504,493
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	10,000
資本剰余金	587,734	916,147
利益剰余金	143,528	102,584
自己株式	△13,545	△2,318
株主資本合計	817,717	1,026,414
新株予約権	3,125	3,125
純資産合計	820,843	1,029,539
負債純資産合計	1,203,791	1,534,033

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自2022年7月1日 至2022年12月31日)
売上高	951,003
売上原価	664,996
売上総利益	286,006
販売費及び一般管理費	322,789
営業損失(△)	△36,782
営業外収益	
受取利息	4
ポイント還元収入	281
助成金収入	105
その他	0
営業外収益合計	391
営業外費用	
支払利息	105
為替差損	26
上場関連費用	4,888
その他	0
営業外費用合計	5,021
経常損失(△)	△41,412
税引前四半期純損失(△)	△41,412
法人税、住民税及び事業税	265
法人税等調整額	△733
法人税等合計	△468
四半期純損失(△)	△40,943

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純損失 (△)	△41,412
減価償却費	15
受取利息	△4
支払利息	105
上場関連費用	4,888
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	△136,821
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△43,902
仕入債務の増減額 (△は減少)	124,945
その他	5,554
小計	△86,630
利息の受取額	4
利息の支払額	△105
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△265
営業活動によるキャッシュ・フロー	△86,997
投資活動によるキャッシュ・フロー	
敷金及び保証金の差入による支出	△273
敷金及び保証金の回収による収入	300
投資活動によるキャッシュ・フロー	26
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△10,002
自己株式の取得による支出	△109
自己株式の処分による収入	249,749
上場関連費用の支出	△7,508
財務活動によるキャッシュ・フロー	232,128
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	145,157
現金及び現金同等物の期首残高	900,694
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,045,852

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年7月28日付で東京証券取引所グロース市場に株式を上場いたしました。この上場にあたり、2022年7月27日を払込期日とする公募による自己株式の処分及び2022年8月30日を払込期日とする第三者割当による自己株式の処分を行っております。これにより、資本剰余金が238,053千円増加し、自己株式が11,292千円減少いたしました。また、2022年9月29日開催の第7期定時株主総会決議に基づき、2022年11月1日付で減資の効力が発生し資本金90,000千円を減少し、その他資本剰余金へ振り替えました。これにより、資本金が90,000千円減少し、資本剰余金が90,000千円増加しました。

これらの結果、当第2四半期会計期間末において資本金が10,000千円、資本剰余金が916,147千円、自己株式が2,318千円となっております。